

平成30年度（2018年度）真珠養殖漁場の真珠母貝成長

草野 充・井戸本純一

1. 目的

滋賀県内の淡水真珠養殖漁場の状況を把握するために、水質および母貝の成長をモニタリングした。

2. 方法

平成30年5月から平成31年3月にかけて県内の主要な真珠漁場である西の湖、堅田内湖、赤野井湾において、概ね2ヶ月に1回、真珠母貝の殻長および体重の測定を行い、成長率を算出した。測定には平成29年より垂下している3歳貝（n=13, 24, 7）ならびに、平成30年5月より新たに垂下した2歳貝（n=25, 25, 25）の2つの年級群を用いた。3歳貝は垂下ネットに收容し、2歳貝はバットの底に砂を敷いてその中に收容した。水質は植物プランクトン量を評価する指標としてクロロフィルa量を、西の湖では毎月、堅田内湖と赤野井湾では貝の測定に合わせて調査した。

3. 結果

各漁場における母貝の平均殻長の推移を図1に示す。3歳貝、2歳貝ともに各漁場で一定の成長がみられ、特に堅田内湖で良好な成長が確認された。

各漁場における母貝の死亡率については（表1）、3歳貝に斃死個体はみられなかったが、2歳貝では西の湖と赤野井湾で数個体の斃死があり、それぞれ8%、4%となった。

西の湖におけるクロロフィルa量は、夏季には100 $\mu\text{g}/\text{l}$ を超えることがあったが（図2）、継続的に高い値にはならなかった。これはアオコの発生に伴うものと考えられたが、大雨や台風によってアオコが流出したために大きく変動したと思われる。昨年度は母貝の成長期にアオコが継続的に発生し、母貝の成長不良がみられたが、今年度は比較的良好的な成長

を示した。

西の湖および赤野井湾は平成29年度以降アオコが発生しやすくなっているため、引き続き注視してモニタリングを行う必要がある。

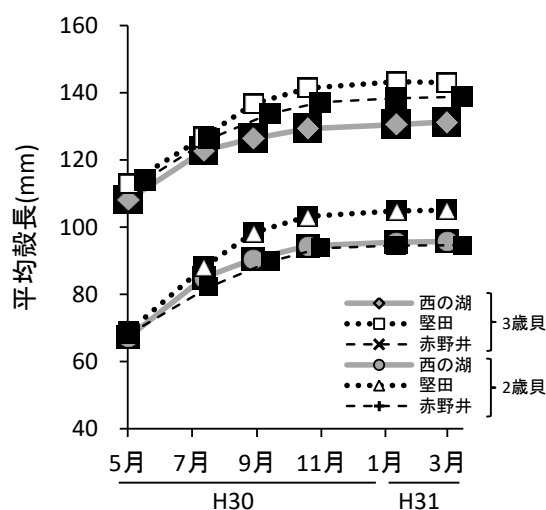


図1 各漁場における平均殻長の推移

表1 平成30年度の垂下期間中の母貝死亡率 (%)

	西の湖	堅田	赤野井	垂下期間
3歳貝	0	0	0	H30.5月～H31.3月
2歳貝	8	0	4	H30.5月～H31.3月

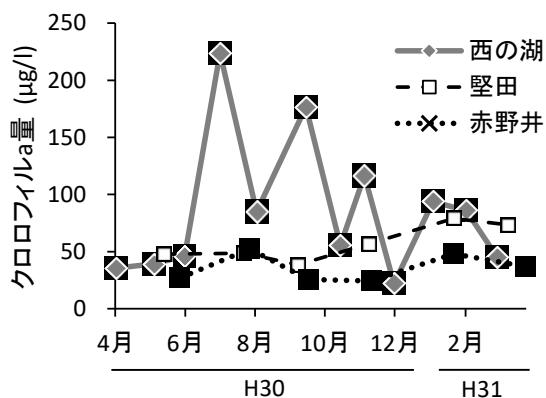


図2 各漁場におけるクロロフィルa量の推移